

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：アド・アール株式会社
定 価：一部 30円



2016年11月20日
第**402**号

未来に命をつなぐために

児童福祉のこころ

理事長 稲松 義人

先週の土曜日、東京の町田市にあるバット博士記念ホームという児童養護施設の開設60周年のお祝いの会に出席してきました。

第2次世界大戦に敗れ、生活の糧が失われた日本人たちが未来に向けて国を復興していくために、北米の教会は祈りを合わせ、特に戦争の犠牲となった子どもたちのことに心を寄せて、多大な援助をしてくれました。「ララ物資」という言葉を聞いたことがある人もおられるのではないのでしょうか。北米の諸教会からの援助によるララ物資が、戦後の食糧物が無い時代の学校給食を支え、またそれ以外にも多くの支援が展開されたと聞いています。ジョージ・アーネスト・バットという方が、ララ物資の責任者であったそうで、その同じ北米の諸教会からの献金で立ち上げられた基金によって開設された児童養護施設の一つが「バット博士記念ホーム」だそうです。

このホームでは、当時から入所する子どもたちは、小舎制(ホーム制)で生活しています。子どもたち一人ひとりが安心できる人と人とふれあいの中で育つべ

きことを思っておられたのでしょうか。最近改正された児童福祉法では、小規模のホーム、ファミリーホーム、里親の推進が言われていますので、日本の児童福祉は、やっとバット博士記念ホーム開設の精神に追いついてきていると言えるのかも知れません。

翌日の日曜日の午後、浜松市で「里親推進フォーラム」が開催されました。改正された児童福祉法の方針に沿って、浜松市でも「里親」として、社会的養護の一端を担ってくれる方を発掘し、また、里親制度への理解者、協力者を増やしていきたいということが目的でした。開会の挨拶で、鈴木康友市長は、「自身が市政方針に掲げておられる「子ども第一主義」について話されました。市民社会が将来に向けてしっかりと受け継がれていくためには、次代を担う子どもたちが健全に育つ社会でなければそれはあり得ません。そのことを市政の中心に掲げられていることに賛意を表し、私も「子ども第一主義」によるまちづくりの一端を担いたいと思っています。

小羊学園は、重い知的ハンディのある子どもたちを施設にお預かりして、保護し教育することからはじまりました。当時は、障がいの重い子どもたちは、学校教育を受けることもできませんでしたが、たとえ、どんなに重いハンディがあつても一人ひとりが大切にされ、「明る

くたくましく」育ってほしいというのが開園時のこころざしであつたと思つています。やがて公的な教育の機会も与えられるようになりましたし、医療的な面でも、発達心理学の面でも研究も進み、心身の発達に障がいのある子どもたちを取り巻く環境は大きく改善しました。

しかし、私たちが日々の仕事を通して出会う子どもたちの置かれている状況は変わらず深刻です。私たちが、施設の中で支援していた頃と違って、地域の中に生活する子どもたちの置かれている状況に視野が広がったことによつて、現代社会がもっている大きな問題点をこれまで以上に強く感じるようになりました。子どもたちがやがて成人となつてからも、この社会の影響を受け続けま

す。子どもたちが健やかに育つための取り組みは、社会全体が問われる問題にながつていきます。

相談員たちが、精神保健福祉の領域の対象者に出会うことがあります。その方の成育歴などを聞くと、幼い頃に育つた環境の影響が大きいことを思わされるようです。さらに考えてみると、「支援者」と言われる私たちもまた同様に、子ども頃の環境の影響を受けて今の自分自身がかたちづくられてきていることに気がつきます。

子どものことを考えることが、明日の社会を築いていくことは、間違いないことだとあらためて感じています。

第8回 小羊ふれあい運動会

「秋の爽やかな日に、みんな笑顔が輝いていました」

10月13日（金）に浜北グリーンアリーナで毎年恒例の小羊ふれあい運動会が行われました。今年も静岡岡から「わたぐも」のメンバーが参戦し、各競技熱戦が繰り広げられました。その様子を報告します。

【輝く笑顔で完走！】

マルカート 秋田 三津代

午前の部、最初の競技を飾るのは、男女30メートル走、車椅子、歩行器15メートル走です。スタートラインについてまず、司会進行の渥美さんより事業所名、名前を紹介され気合十分。位置について、スタートの笛の合図と同時に一斉に走り出します。観覧席から保護者の方の熱い声援と、ゴールからカメラを構える職員に見守られながら、ゴールを目指し精一杯走ります。練習の成果が出た方、緊張で思うように結果がでなかった方もいましたが、思いは一つ、輝く様な笑顔で完走する事が出来ました。



【宙に浮くパン！】

温心寮 横田 佳澄

運動会と聞くと真っ先に「パン！」と答える利用者さんも多い事でしょう。運動会「パン食い競争」と言っても過言ではないくらい皆さんパン食い競争が大好きです。

それもそのはず、大好きなパンが宙に浮いている楽しい光景は年に一度「運動会」で見られないのです！
わたぐものお友達も参加して、宙に浮

くパンを、目をキラキラと輝かせ眺めていた姿はとても印象的でした。

参加者それぞれが、思い思いに宙に浮かぶパンを取り、眺め、ニコニコと素敵な笑顔を見せつけてくれましたね。

そんな沢山の笑顔を見る事が出来る「パン食い競争」に心から感謝です！



【最後の1個まであきらめない】

小羊デイケアホーム 高林 重誓

各施設でのんびりと、おいしい昼食。恒例の魅力的倶楽部の皆さんによる「みんなで歌って踊ろう！」では様々な施設のユニフォームが音楽と一緒に混ざり合い、踊り歌いながら大いに盛り上がり合いました。

午後の最初の競技「玉入れ」では今回少し競技内容を変更しました。例年、年



齢や障がいの程度等、施設間で差がある中で、分り易く、皆さん楽しめるゲームが課題でした。「低床の玉入れ」や「つなひき」など、デイケアホームの仲間たちと他施設の体育館等をお借りしてイメージをしてみました。

結果、今回は「同数の玉を投げ、早く全部入ったチームの勝利」のスタイルにしました。「よいスタート」の合図とともに玉をかごに向かって一斉に投げ込みます。かごの中身はどんどん重くなりますが最後の20個くらい床に残ると、どのグループもなかなか上手に入りません。するとみんな声を掛け合って、最後の一個が入るまで全力で投げ続ける光景が見られました。どのグループも競技を通じて一丸となり、楽しい玉入れ競技になりました。

【真剣さと慎重さと笑顔で勝負】

支援センターわかぎ 内山 晴康

徒競走から始まったふれあい運動会も残すところあと2種目になりました。各事業所対抗の得点争いの趨勢も徐々に明らかになり、年齢・運動能力に関わらず、純粹に勝敗を競う事が楽しめる玉転がしリレーの選手・応援の双方に力が入っています。今回も各施設一步も譲らぬ熱戦が展開されました。玉を転がすつもりが玉に転がされる方・慎重に扱い過ぎて立ち止まってしまおう方・大きくコースを外れていく方…。それでも選手表情には真剣なまなざしと笑顔が絶えることはありませんでした。そんな一進一退の熱戦を制したのはオリーブの樹でした。おめでとう。



【歓声と声援のなか行われた 男女混合リレー】

オリーブの樹 鈴木 賢也

様々な競技により興奮冷めやらぬなに行われた男女混合リレー、全施設の代表者がバトンを持ってスタートの合図と共に走り出すと館内は歓声と声援で溢れかえりました。皆が全力で走り、大盛り上がりそのままリレーが終わりました。どの施設の人たちも満足そうな表情を浮かべ、リレーのメンバー同士、応援席の人たちで手を取り合い、喜びを分かち合っていました。大きな歓声と声援により最高の盛り上がりを見せ、会場全体がひとつになったリレーでした。



【支えられて】

小羊デイケアホーム 西尾 知紘

利用者の皆さん運動会ご苦労様でした、どの利用者さんも輝いて見えました。そしてオリーブの皆さん、優勝おめでとうござります。

1番の盛り上がりは、やはり混合リレー。今年度は各施設の施設長にアンカーを依頼し多忙の中、多くの施設長が協力してくださりました、競技開始と同時に、「がんばれ〜！がんばれ〜！」と応援の声が聞こえ会場内が一体になる感動を感じました。

昼休みではエキゾチッククラブの皆さんが、マリオの衣装を着て歌と踊りを披露してくださいました。

「毎年この会は大切にしています。日程が決まるとこの日は毎年スケジュールを開けておくんですよ」の言葉に、感謝の気持ちと多くの人に支えられている事を実感しました。

最後になりましたが運営にあたり実行委員の皆様、各施設の職員の皆様には運動会を支えていただきありがとうございます。

今後も、各施設が支え合い、ふれあいが出て楽しい会が増えればよいと思います。

ふれあい運動会 実行委員に聞きました！

実行委員長 小羊デイケアホーム 西尾知紘 さん

- 今年度のふれあい運動会で意識したことは？
利用者さんと職員さんと親御さんが一緒に楽しめる様、意識しました。
- 運動会の開催中に感動したことは？
会場の至る所で、利用者さんと職員さんがともに笑い合い喜んでいる姿に感動しました。
- 利用者が楽しめるように心掛けたことは？
放送係に協力してもらいすべての利用者さんに出走前の意気込みをインタビューしました。
- 次年度への抱負を聞かせてください
利用者さん同士がもっとふれあいが出来るようなアトラクションを考えていきたいです。



児童部門の職員研修を開催

10月29日(土)に法人内の児童家庭支援部門の職員研修が行われました。法人内の児童発達支援・放課後等デイサービス・障害児入所施設の職員約40名が参加しました。午前中は、浜松市手をつなぐ育成会副会長であり、小羊学園の苦情解決第三者委員である、小田史子様にご自身の子育てについて講話いただきました。親としてどのような不安や苦労をし、子どもの成長に寄り添い歩んできたのか、様々な実体験をお話しいただきました。子どもたちと関わる上で、子どもの発達や成長だけでなく、家族も含めた支援のありかたを考えると、大変勉強になりました。



午後は、6つのグループに分かれて、家族・保護者との関係づくりをテーマにした事例をもとに話を深めました。こうした研修機会を通し、子どもやご家族にとって明るい未来をお手伝いできればと願っています。

平成29年度 新採用試験 二次募集

社会福祉法人小羊学園では、平成29年4月採用の新規職員採用の二次募集(2月初旬採用試験予定)を行います。県内の福祉系学校等にご案内しますが、法人ホームページでも掲載します。福祉の仕事に興味のある方、お知り合いで福祉の仕事に就きたい方等に周知くださると幸いです。

絵本・図鑑など、図書を求めています

子どもたちを支援する現場で、絵本や図鑑などは、興味や好奇心を育む大切なツールです。皆様の家庭で、不要になった図書がありましたら、お譲りください!

- ・ 幼児期/学齢期の子どもたちが好きな図書
例えば、知育絵本、動物・植物図鑑、電車や自動車の図鑑、地理・歴史物等の事典など
- ◇問合せ：在宅支援センターぱびるす
担当：本多 TEL：053-414-1666

クリスマスがやってきます

待降節(アドベント)に入り、主イエスキリストのご降誕を待ち望む季節になってきました。今年も、小羊学園の各施設でクリスマス会を行い、イエス様の誕生をお祝いします。お時間のある方は、ご一緒にお祝いしましょう! (会場は基本的に当該施設です。施設以外で行う場合のみ、会場を掲載しています)

◆入所施設のクリスマス

- ◇三方原スクエア
・ キャンドルサービス
・ 記念礼拝・祝会
12月16日
- ◇支援センターわかき
12月23日
- ◇つばさ静岡
12月21日
- ◇つばさ静岡
12月23日

◆通所施設のクリスマス

- ◇小羊デイケアホーム
所：遠州栄光教会三方原礼拝堂
12月16日
- ◇マルカート
12月22日
- ◇オリーブの樹
12月19日
- 所：浜北教会礼拝堂
- ◇ぱびるす
12月22日
- ◇ドルチェ・第2トルチェ
12月23日
- ◇わかかな
12月22日
- ◇ばるしあ
12月22日
- ◇わたくも・たんぽぽ
12月17日



小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告

10月 受付分 635,266円 (17件)
累計 2,949,042円 (161件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

編集後記

前号・前々号で、グループホームの用地探しについて協力依頼をお願いさせていただきましたところ、複数の方にご連絡をいただいた。まだ具体的にどうするかという段階ではないが、自分たちにできる範囲で前向きに進めていければと思っている。こうして地域のサポートがあつて福祉が増進していけることを嬉しく思う。

近年、秋という季節が短く感じませんか?暑かったり急に寒くなったりの繰り返しです。更けゆくわずかな秋を感じつつ、アドベントを迎えましょう。皆さまお身体ご自愛ください。